

下肢の表面の静脈が膨らみ、瘤(こぶ)となる病気を下肢静脈瘤と呼びます。

見た目以外の症状としては、下肢のだるさ・むくみ、静脈瘤部の痛み、こむら返りなどがあります。また皮膚症状を伴うこともあり、下腿の色素沈着・しっしん、皮膚が硬くなる、さらに悪化すると皮膚がえぐれてしまう(潰瘍)こともあります。下肢静脈瘤に対して適切な治療を行えば、症状の改善が期待できます。

静脈には血液の逆流を防止する弁という構造があり、これが正常に機能することで、下肢の血液は心臓へと戻っていきます。静脈弁が壊れてしまった場合には、重力により血液が逆流し、下肢の表在の静脈にたくさんの血液がたまってしまいます。このため、静脈が拡張し、瘤となります。これが下肢静脈瘤の成り立ちです。一般的には女性に多く、妊娠、出産を契機に発症する人が多いです。加齢とともに悪化することが多く、また静脈瘤になりやすい体質は遺伝すると考えられています。職業と関連があり、立ち仕事(美容師・理容師、調理師、接客業など)の方に多くみられます。



左下肢静脈瘤(大伏在静脈逆流によるもの。膝部から下腿にかけて静脈瘤が目立つ)

下肢静脈瘤の症状

醜形(しゅうけい)	美容上の問題
痛み	静脈瘤部の痛み 立ち仕事をした後に多い
筋痙攣(けいれん)	こむら返り 足がつる 夜間、明け方に多い
下肢のむくみ	午後から夕方に症状が悪化する
血栓性静脈炎	静脈瘤が赤くなり、硬くなって、痛みを伴う
出血	けがをしたとき、あるいは自然に起きることもある
かゆみ、湿疹	かぶれやすくなる
色素沈着	にじみ出た血液の成分で、皮膚が茶色になる
皮脂脂肪硬化症	皮下組織が線維化する 皮膚が硬くテカテカになる
潰瘍	皮膚が弱くなり、えぐれてしまう なかなか治らない

➤ 下肢静脈瘤の治療法としては、

- ① 圧迫療法(弾性ストッキングや弾性包帯を使用)
- ② 硬化療法(静脈瘤部に硬化剤を注射)
- ③ 手術(ストリッピング、血管内焼灼術など)が挙げられます

➤ 診断は超音波検査で可能です

超音波検査は体の負担がほとんどない検査法で、これにより下肢静脈瘤の原因を確認し、さらに患者さんの希望を考慮して、治療法が決定されます。頻度の高い伏在静脈逆流による下肢静脈瘤であれば、③手術治療が最も有用な治療です。

当院では保険適応となった血管内焼灼術を平成25年7月から行っており、平成27年2月末までに230名の患者さんに治療を行いました。平成26年11月からは最新機器へバージョンアップしています。

血管内治療は患者さんの負担が少なく、根治性も高い優れた治療法です。下肢静脈瘤は病気であり、治療法があります。気になる方は診察を受けてみてはいかがでしょうか。

